

2022年3月期 第2四半期 決算説明会用資料

2021年11月19日



レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
証券コード（6272）

レオン自動機株式会社 社長の小林でございます。

「2022 年 3月期 第2 四半期 決算説明会」を始めさせていただきます。

◆ 目 次

- ① レオングループの概要 …… p 3
- ② 2021年度 上期連結決算概況 …… p 9
- ③ 2021年度 通期連結業績予想 …… p22

本日は、ご覧の順番に進めてまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

① レオングループの概要

それでは、「レオングループの概要」について
ご説明いたします。

◆ レオングループの概要

会 社 名	レオン自動機株式会社 (RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.)
所 在 地	栃木県宇都宮市野沢町 2 番地 3
代 表 者	代表取締役社長 小林幹央
設 立	1963年3月15日
事 業 内 容	食品加工機械製造販売事業、食品製造販売事業
資 本 金	7,351百万円
決 算 期	3月31日
株式の上場	東証一部上場
従 業 員 数	2020年度 個別：681名 連結：1,056名
関連子会社	国内：2社 海外：3社
※ 国内シェア	包あん機 90%、自動化シートライン 90%以上
※ 総保有特許数	国内 154件、海外 368件 (2021年3月31日 現在)



当社グループは、
食品機械を販売する「食品加工機械製造販売事業」と
パンなどを販売する「食品製造販売事業」があります。

本日の説明会では、「食品加工機械製造販売事業」を
「食品機械事業」と、「食品製造販売事業」を「食品事業」
と表現させていただきます。

◆ 食品加工機械製造販売事業

食 品 成 形 機

包あん機やその周辺機で構成された単体



製パンライン等

製パンラインを主とした自動化ライン等



「食品機械事業」では、大きく「食品成形機」と「製パンライン等」に分けられます。

「食品成形機」は、包あん機を主体とする単体機で構成され、お饅頭、クッキー、中華まん、ハンバーグなどを生産します。

「製パンライン等」は、製パンラインを主体とする自動化ラインであり、ユニット式に各機械を繋ぎ合わせ、お客様の要望に合ったラインを作り上げます。

パン以外にも、クッキー、ピザ、調理食品などを生産します。

◆ 食品加工機械製造販売事業 国内拠点

機械は国内で生産、販売は日本全国を網羅

栃木県



営業所



出張所



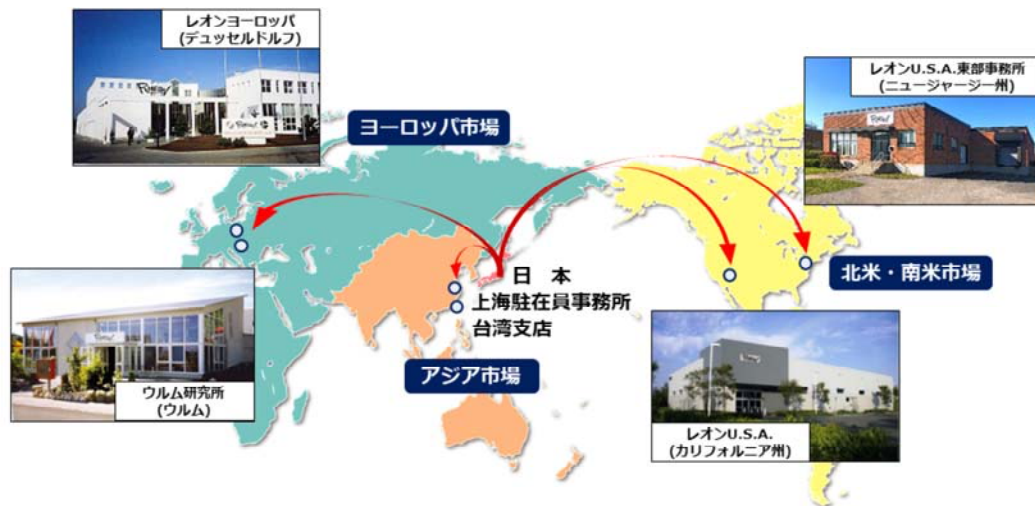
RHEON

6

「食品機械事業」では、機械を国内で生産し
本社を含めた8か所の拠点で営業活動を行っています。

◆ 食品加工機械製造販売事業 海外拠点

海外の販売子会社を通して（アジアは本社直販）
世界126の国と地域に機械を販売



RHEON

7

また、全世界をマーケットと捉えており、日本市場、
北米・南米市場、ヨーロッパ市場、アジア市場の
4つの地域ごとに戦略を立て販売活動を行っています。

◆ 食品製造販売事業 国内・海外拠点

オレンジベーカリー

カリフォルニア州

本社・第1工場



第2工場



第4工場



ノースカロライナ州

第3工場



- ・ レオン機の実験工場として
設立し、クロワッサンなど付加
価値の高いパンを製造

- ・ 主に成形冷凍のパンを全米の
ベーカリー、スーパー、
レストラン等に販売

(有)ホシノ天然酵母パン種

神奈川県

本社・町田工場



秦野工場



- ・ ホシノ天然酵母パン種を
製造販売

RHEON

8

「食品事業」では、
米国の子会社である「オレンジベーカリー」で、クロワッサンなど付加価値の高いパンを製造しベーカリー、スーパー、レストラン、ホテルなどに販売しています。

また、国内の子会社である「ホシノ天然酵母パン種」では、ホシノ酵母をベーカリーに販売しています。

② 2021年度 上期連結決算概況

次に、「2021 年度 上期連結決算概況」について
ご説明いたします。

◆ 連結計算書サマリー（上期）

(百万円)	2020年度 上期実績	2021年度 上期計画 (2021年5月11日)	2021年度 上期実績 ※1	前年比
売上高	11,415	12,200	12,697	11.2 %
営業利益	1,062	840	971	▲ 8.5 %
経常利益	1,176	920	1,020	▲ 13.3 %
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,526	650	911	▲ 40.3 %
1株当たり 四半期純利益	56.95 円	24.26 円	34.01 円	—
中間配当	7.00 円	8.00 円	8.00 円	—

※1 期中平均為替レート : USドル = 109.80 円 ユーロ = 130.90 円

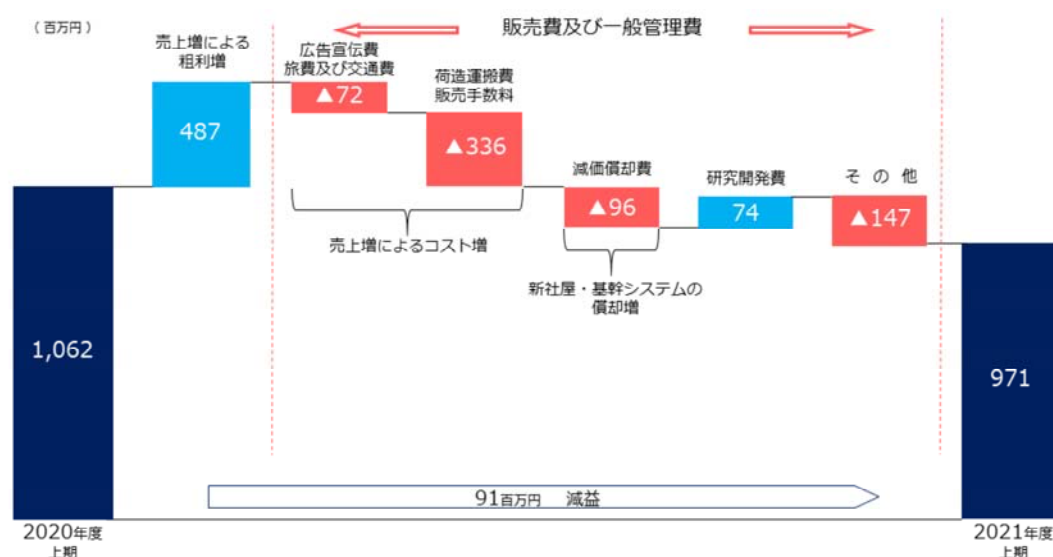


2021年度上期は、

売上高 1 2 6 億 9 千万円、
 営業利益 9 億 7 千万円、
 経常利益 1 0 億 2 千万円、
 四半期純利益 9 億 1 千万円 となりました。

前年同期比で、売上高は 1 1.2 %の増収、
 営業利益は 8.5 %の減益となりました。

◆ 営業利益増減（上期）



RHEON

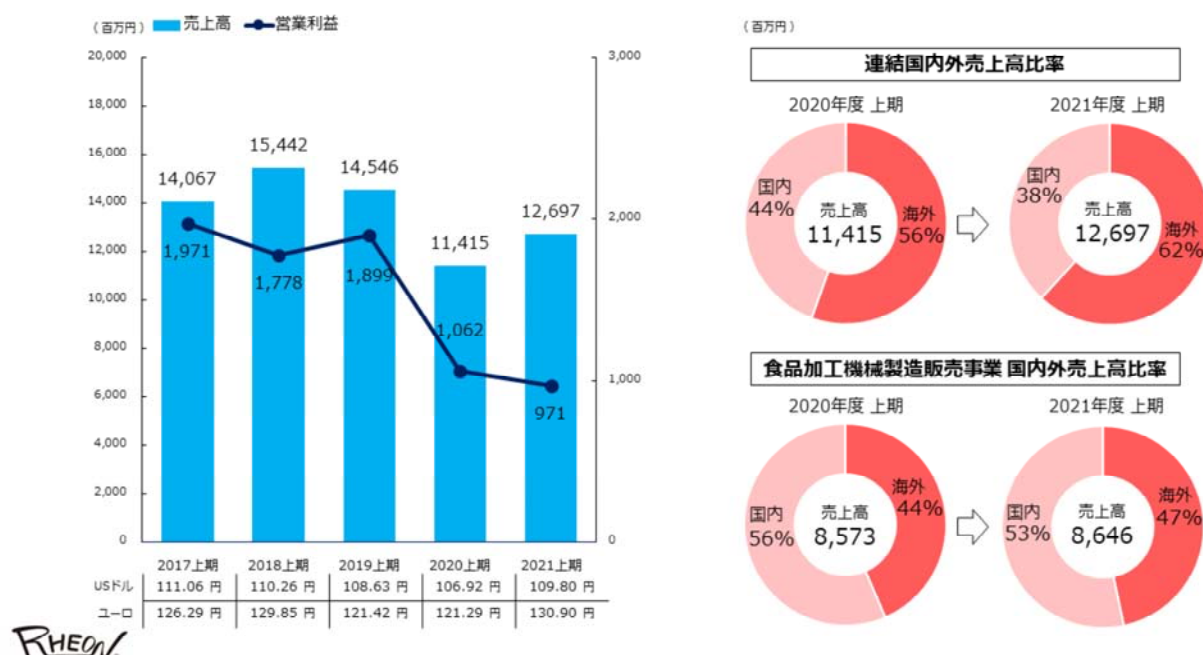
11

このチャートは、営業利益の増減要因を表したものです。

左側の、10億6千万円 が、前年度上期の実績、
右側の、9億7千万円が、2021年度上期の実績です。

売上が増加したことにより、粗利が4億8千万円増加しましたが、販促費等のコストや建物およびシステムの償却費もかさみ、結果、減益となりました。

◆ 過去5年の業績推移（上期）



12

過去5年間における業績推移のグラフと国内外の売上高比率をグラフにしました。

円グラフを見ると、前年同期比による連結ベース全体の海外売上比率が6ポイント増加し、食品機械事業の海外売上比率も3ポイント増加しています。

国内において、新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う度重なる緊急事態宣言の発出により、期待される経済的効果が得られませんでした。

一方、欧米や中国などの地域では、ワクチン接種拡大で経済が回復傾向となったことで、消費活動が活発化し設備投資も徐々に増えてきたことを表しています。

◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高・セグメント利益》（上期）

食品加工機械製造販売事業

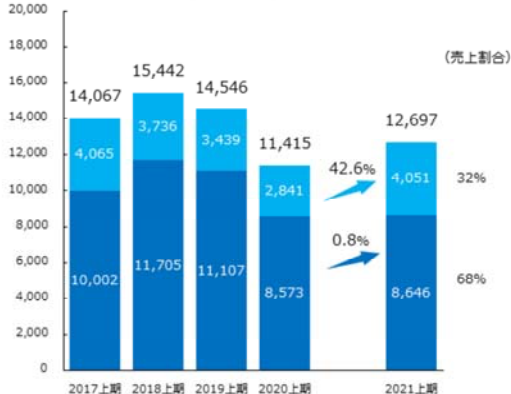
売上高・セグメント利益は、ともに微増。しかし、上期の受注は増加。

食品製造販売事業

米国の経済回復とともに、増収増益。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業

（百万円） 【売上高】



（百万円） 【セグメント利益】



RHEON

13

次に、事業別売上高とセグメント利益です。

「食品機械事業」の前年度比は、
売上高が 0.8%増加し、
セグメント利益も 3.6%増加となりました。

「食品事業」においては、
売上が 42.6%増加し、
セグメント利益も 2.4倍 増加となりました。

食品事業は、食品機械事業よりも、消費者と直結している分だけ回復が早いと言えます。

◆ ご参考 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移



RHEON

14

ただし、「食品機械事業」の
受注高・売上高・受注残の数値のグラフを見ていただくと
分かります通り、
前年同期比の受注高は42.5%増加し、
受注残においては、2020年度と2021年度上期を比べると
10億2千万円ほど増加しています。

食品加工機械の設備投資は、経済の成長に対して遅れ気味に
推移しますので、結果が出るのに時間が掛かりますが
市場は、緩やかに回復傾向にあると推測しています。

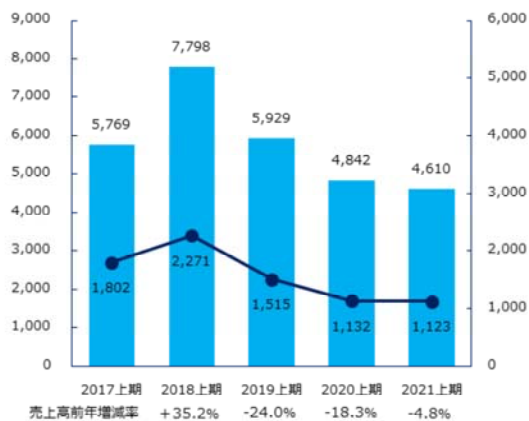
◆ 食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

観光土産業界の低迷や自動化ラインの案件が少なく、減収減益。

売上高・セグメント利益

主な増減要因

（百万円） ■ 売上高 ▲ セグメント利益



- 製パンライン等が昨年より減少。
昨年上期は受注残もあり売上が好調だったが
今期は受注残が少なかった。
- コロナの影響で、観光土産業界は
振るわなかった。
- 食品成形機は、小売店およびスーパー関連で
CN700型（包あん機）の販売が好調であり
売上が増加。

RHEON

15

地域別の状況について、もう少し詳しくご説明いたします。

国内市場では、スーパーやコンビニ関連の投資はあるものの、相変わらず観光土産や外食産業の低迷は続き、自動化ラインの案件が減少したことで、売上が4.8%、セグメント利益が0.8%と共に減少しました。

昨年秋に発売された、新機種のCN700型の認知度が高まったこともあり、包あん機を含んだ単体機の売上は増加しました。

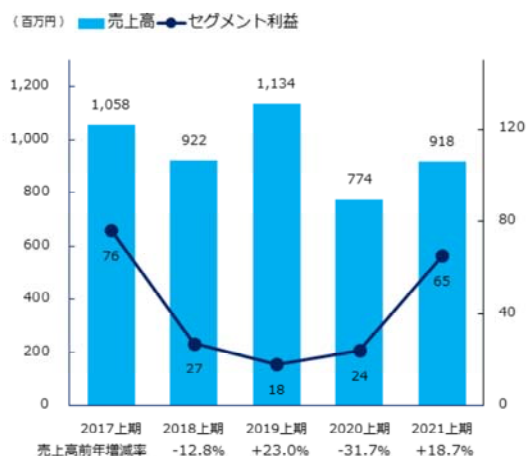
また、自動化ラインや包あん機等を合わせた受注ベースでも昨年同期比より増加傾向にあります。これは、大型展示会や講習会などの営業活動の制限の緩和や、WEBと対面販売を組み合わせた新たな営業活動が構築されてきたことが一因かと思います。

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

海上輸送遅延の影響を受けたものの、新型コロナのワクチン接種が進み経済活動が再開され、食品製造業界の積極的な投資傾向が見られ売上が増加。

売上高・セグメント利益

主な増減要因



- アメリカの経済回復により売上が昨年より増加。
- 製パンライン等は、中規模ベーカリーを中心に機械売上が前年に比べ増加。
- 食品成形機は、自動化の需要はあるものの海上輸送のコンテナ不足や、お客様都合による機械納入の延期も重なり前年に比べ減少。
- 定期点検やスペア部品の需要が増加し、売上・利益に貢献。

RHEON

16

米国市場では、経済回復により円ベースでの売上が18.7%、セグメント利益が174.2%と共に増加しました。

自動化ラインにおいては、商談が停滞していた中規模ベーカリーを中心に売上が増加しました。

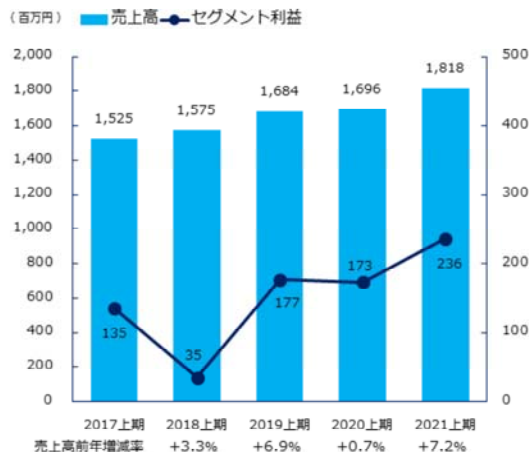
一方、包あん機などの単体機ではコロナ禍での人材不足により自動化の要望が出てきていますが、海上輸送のコンテナ不足により、機械納入が遅れたため、減少してしまいました。

また、お客様の機械の稼働が上がったこともあり、メンテナンスの売上が大幅に増加し、セグメント利益を押し上げた一因となりました。

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

ベーカリー向け小型製パン機の販売が回復、またステイホームによるスーパーマーケットの需要拡大により、食品成型機を中心に売り上げが増加。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 製パンライン等は、主力モデルである小型製パン機の販売が好調であったが、大型ラインの受注が減少したため、売上減少。
- 食品成型機においては、ステイホームによるスーパーマーケット需要が堅調で売上増加。
- 展示会中止などにより販管費減のため利益が増加。

RHEON

17

ヨーロッパ市場では、円安の影響もあり円ベースの売上が7.2%、セグメント利益が36.4%と共に増加しました。

自動化ラインにおいては、主力モデルである小型製パン機の販売が好調でしたが、大型ラインの受注が少なく、売上が減少しました。

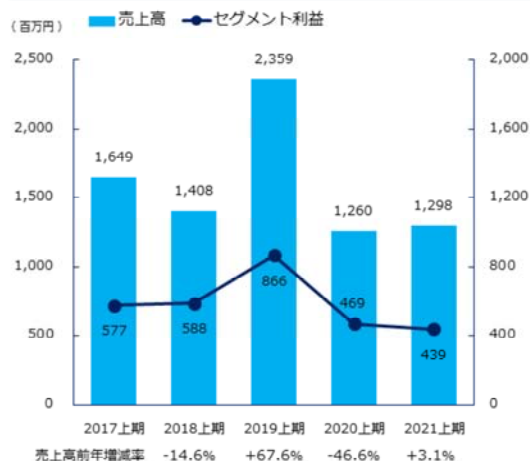
包あん機などの単体機では、ステイホームによるスーパーマーケット需要が堅調で機械売上が増加しました。

また、セグメント利益の増加は、展示会の中止や一部営業活動の制限がある中で、販管費を削減できたことが大きな要因です。

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア《過去5年（上期） 売上高・セグメント利益》

本社スタッフが現地へ赴けなかったものの、現地販売代理店による展示会や研究会の実施により食品成型機を中心に売り上げが増加した。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 中国・韓国・台湾好調だが東南アジアは厳しい。
- レオン営業スタッフが現地へ赴けなかったこともあり、製パンライン等の売上は減少。
- 食品成型機は、中国、香港、台湾などの現地代理店による積極的な展示会活動や研究会実施により、売上が増加。

RHEON

18

アジア市場では、売上が3.1%増加しましたが、セグメント利益は6.4%減少しました。

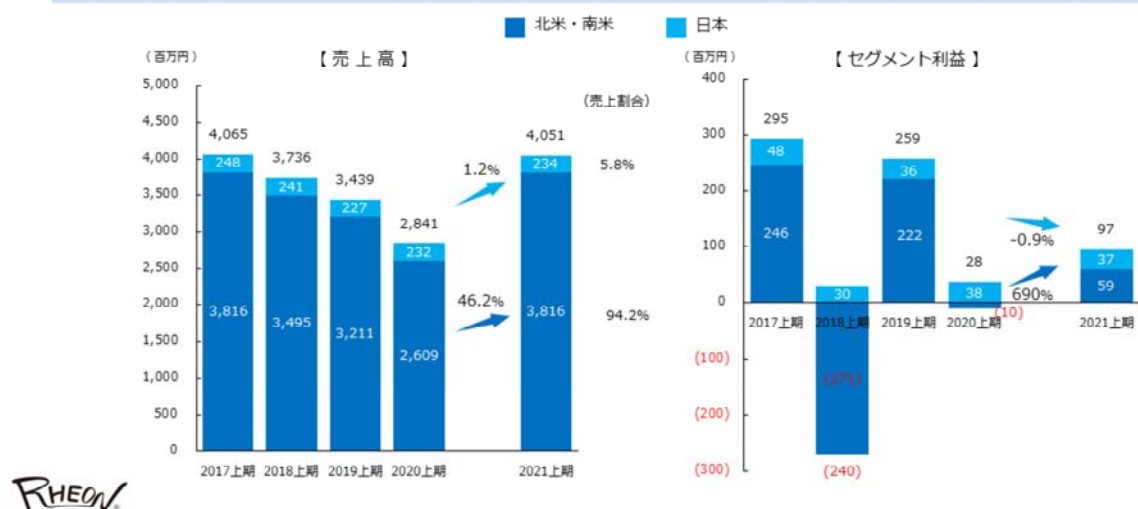
自動化ラインの商談は、今だ、本社スタッフが現地へ行けなかったことや海上輸送のコンテナ不足による機械の納入遅れもあり、売上は減少しました。

また、包あん機などの単体機は、中国や台湾などの経済が回復してきている地域で、現地代理店による活動が活発になってきており増加しました。

それに比べて、東南アジア地域ではコロナの影響もあり厳しい状況が続いています。

◆ 食品製造販売事業 《地域別売上高・セグメント利益》（上期）

売上高	■北米・南米	新型コロナウイルスの接種が進み、レストランや大手食品卸業社向けの売上が増加。 土産用大手パン種減少だが、小売店向けが堅調であった。
	■日本	
セグメント利益	■北米・南米	原材料や輸送費などコスト上昇により、利益を圧迫した。 販管費が増加で利益減少。
	■日本	



次に「食品事業」の状況です。

主要である米国のオレンジベーカリーは、経済回復により新規顧客も増え、売上が46.2%増加しました。

ただし、原材料や輸送コストの上昇が、利益を圧迫しており先行きが見通せない状況であります。

◆ 連結貸借対照表サマリー（上期）

(百万円)	2020年度上期		2021年度上期			
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	33,328	100 %	36,339	100 %	9.0 %	—
流動資産	16,052	48.0 %	19,276	53.0 %	20.1 %	● 現金及び預金の増加 ● 受取手形及び売掛金の増加 ● 仕掛品の増加 など
固定資産	17,276	51.9 %	17,062	47.0 %	▲1.2 %	● ソフトウェアの減価償却費の増加により無形固定資産の減少 など
負債合計	7,274	21.8 %	8,918	24.5 %	22.6 %	—
流動負債	4,823	14.5 %	6,490	17.9 %	34.6 %	● 支払手形及び買掛金の増加 ● 前受金の増加 ● 買与引当金の増加 など
固定負債	2,451	7.4 %	2,428	6.7 %	▲0.9 %	● 長期借入金の増加 ● 繰延税金負債の減少 など
純資産合計	26,054	78.2 %	27,420	75.5 %	5.2 %	● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加 など
負債純資産合計	33,328	100 %	36,339	100 %	9.0 %	—

RHEON

20

貸借対照表サマリーについて、主なポイントをご説明いたします。

流動資産は、売上が増加したことにより現金や売掛金、仕掛品等が増加しました。

固定資産は、ソフトウェアの減価償却費の増加により無形固定資産が減少しました。

流動負債は、機械製造が増加したことにより、原材料の買掛金等が増加したことによります。

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー（上期）

（百万円）	2020年度上期	2021年度上期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	4,820	7,484	—
営業活動によるＣＦ	109	1,741	● 税金等調整前四半期純利益 1,020 ● 減価償却費 558 ● 売上債権 ▲500 ● 棚卸資産 ▲860
投資活動によるＣＦ	183	▲347	● 有形固定資産の取得 ▲342
財務活動によるＣＦ	850	▲44	● 長期借入れによる収入 350 ● 長期借入金の返済 ▲160
現金及び現金同等物の増減額	1,161	1,362	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,981	8,846	—

RHEON

21

キャッシュ・フロー・サマリーです。

「現金及び現金同等物の期首残高」は

7 4 億 8 千万円でしたが、

「期末残高」は、

営業活動のキャッシュ・フロー増加により

8 8 億 4 千万円となりました。

③ 2021年度 通期連結業績予想

次に、「2021 年度 通期連結業績予想」について
ご説明いたします。

◆2021年度 通期連結業績予想

親会社株主に帰属する当期純利益は、2020年度の土地売却等の特別利益がないことから減少する見込み。

(百万円)	2020年度 実績 ※1	2021年度 予想 ※2 (2021年5月11日)	2021年度 新予想 ※3 (2021年11月8日)	前年との増減 (%)
売上高	22,280	25,050	26,290	18.0 %
営業利益	1,404	2,080	2,010	43.2 %
経常利益	1,622	2,120	2,110	30.0 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,608	1,420	1,560	▲3.0 %

※1 期中平均為替レート : USドル = 106.06 円 ユーロ = 123.70 円
 ※2 想定為替レート : USドル = 107.00 円 ユーロ = 128.00 円
 ※3 想定為替レート : USドル = 112.00 円 ユーロ = 131.00 円



23

2021 年度の通期計画は、11月8日に業績予想の修正をしました通り

売上高 262億9千万円、
 営業利益 20億1千万円、
 経常利益 21億1千万円、
 当期純利益 15億6千万円 と

増収減益を見込んでおります。

減益の要因は、
 2020年度にあった土地売却等の特別利益が今期はないことによります。

◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高》

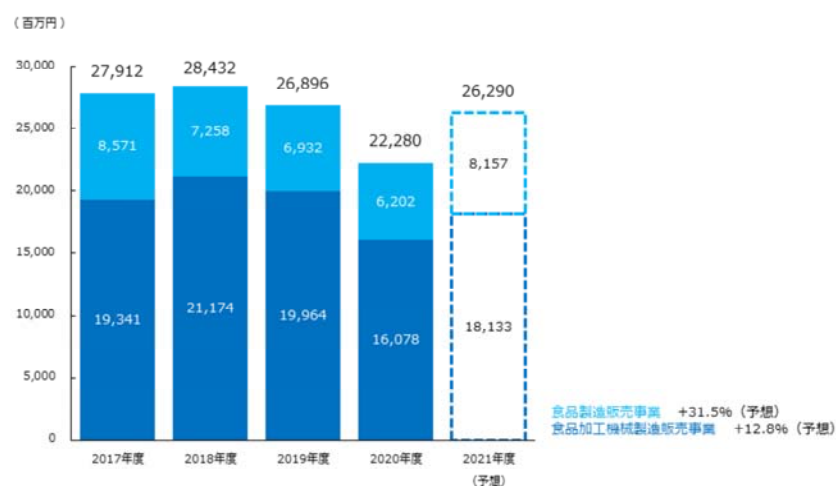
食品加工機械製造販売事業

コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、下期に売上が好転すると予測。

食品製造販売事業

オレンジベーカリーを主体に好調を維持すると予測。

■ 食品加工機械製造販売事業 ■ 食品製造販売事業



RHEON

24

事業別の通期の見通しとして、

「食品機械事業」は、コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、下期に売上が好転すると予測しており、前年度比12.8%増加、

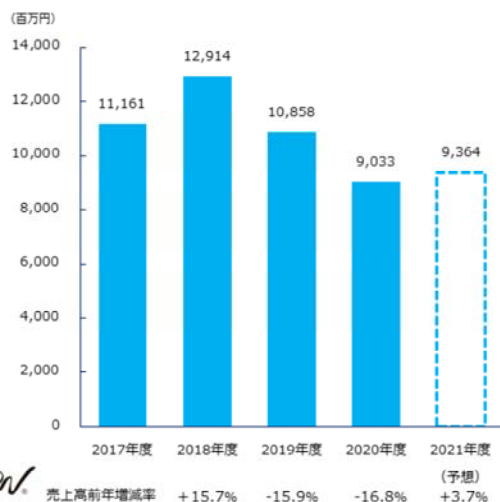
「食品事業」では、オレンジベーカリーを主体に31.5%増加すると予測しています。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年（通期） 売上高》

製パンライン等や食品成形機は、全体的に回復傾向にあるが、観光土産業界の低迷が不安材料。

売上高

主な増減要因



- 製パンライン等は、ターンキー提案を通して大型ラインの受注が増加。
スーパーの内製化・コンビニの新商品化、調理食品業界や菓子業界の生産合理化。
- 食品成形機は、各種補助金の活用により投資が徐々に増加。
- 観光土産業界の回復は今期中には難しく、微増と予測。

25

それでは、「食品機械事業」の地域別の見通しについてご説明いたします。

国内市場では、製パンを中心としたスーパーの内製化やコンビニの新商品化、また、調理食品業界や菓子業界の生産合理化など、ターンキー提案を通して大型ラインの受注が増えてきています。

包あん機等の単体機に関しても、各種補助金の活用により投資が徐々に増加してきています。

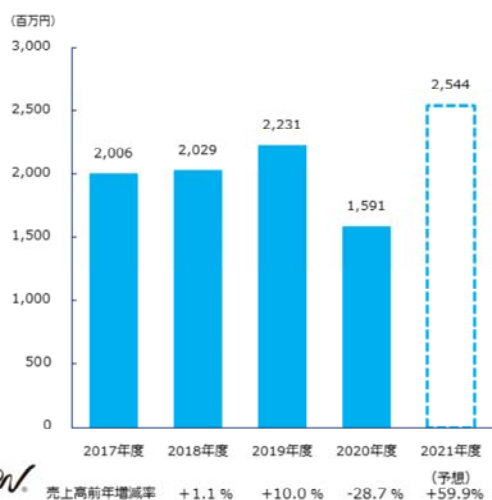
ただし、観光土産業界の回復は今期中には難しく、対前年比は微増と予測しています。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 北米・南米《過去5年（通期） 売上高》

米国の経済回復とともに、引き続き食品加工機械等が好調と推測。

売上高

主な増減要因



- 製パンライン等は、大型自動化ラインの上期からのずれ込みあり。スーパー向け中規模ベーカリーの投資が好調に推移すると予測。
- 食品成形機は、アジアエスニックの浸透でスーパー向け冷凍・チルド商品の「餅アイス」や「中華まん、小籠包」などを生産する設備投資が増加と予測。

26

米国市場では、コンテナ不足により大型自動化ラインの
上期からのずれ込みとともに、スーパー向け中規模ベーカリーの
投資が好調に推移していくと見込まれています。

また、アジアエスニックが浸透している米国市場において、
包あん機で、スーパー向け冷凍・チルド商品として「餅アイス」や
「中華まん、小籠包」などを生産する設備投資が増えてきており、
今期は大きく売り上げを伸ばすと推測しています。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去5年（通期） 売上高》

コロナ禍の影響は限定的で、生産合理化需要があり売上を維持と推測。

売上高

主な増減要因



- 製パンライン等は、小型製パン機を主体とした販売が堅調と予測。
- 食品成形機は、スーパー向けスコッチエッグ・クノーデル等の調理食品生産で売上維持と推測。
- E U主要国からの投資が活性化している東欧市場にビジネスチャンスを広げていく活動を推進。

27

ヨーロッパ市場では、大型案件が少ないですが
小型製パン機を主体とした販売とスーパー向けのスコッチエッグ・
クノーデル等の調理食品を生産する包あん機が安定し
売上を維持していくと推測しています。

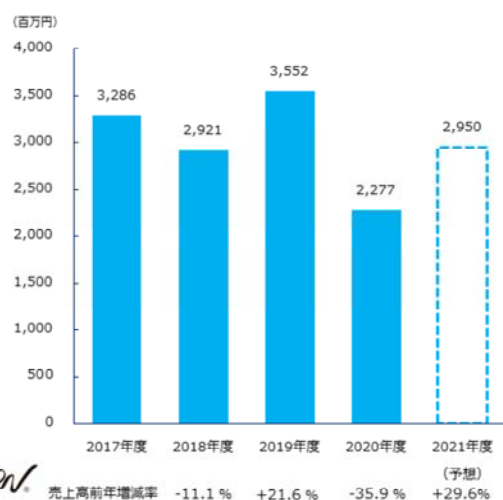
また、E U主要国からの投資が活発化している東欧市場に
ビジネスチャンスを広げていく活動を続けております。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業 アジア《過去5年（通期） 売上高》

中国を中心に韓国・台湾等が好調を維持するとともに、東南アジアでは設備投資が依然低迷と推測。

売上高

主な増減要因



- 中国・韓国・台湾の代理店の販売活動が活性化し、標準機を中心に売上が順調に伸びると推測。
- 中国は、小型製パンラインやチーズボール、月餅、中華饅などを生産する包あん機の販売増加を予測。
- 東南アジア市場は、コロナウイルス感染症影響で依然、設備投資は低迷と推測。

28

アジア市場では、大型案件は少ないですが、中国・韓国・台湾のようにラボ機能を持っている代理店の販売活動が活発化しており、標準機を中心に売上が順調に伸びると推測しています。

特に中国では、小型製パンラインやチーズボール、月餅、中華まんなどを生産する包あん機の販売増加を見込んでいます。

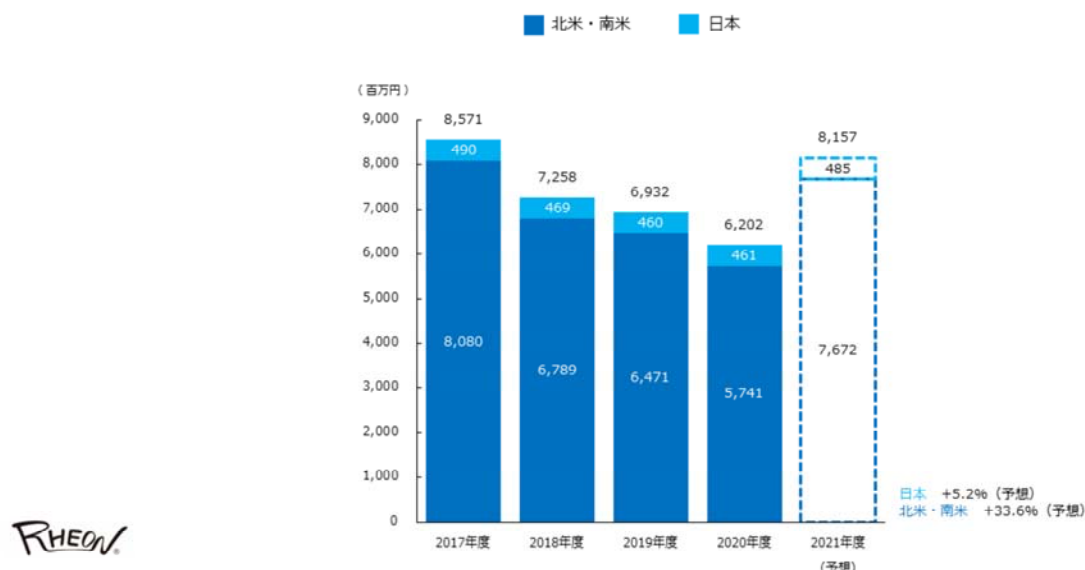
一方、東南アジア市場では、コロナウイルス感染症の影響で依然、設備投資は低迷を続けると思われます。

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業《過去5年（通期） 地域別売上高》

売上高

■ 北米・南米
■ 日本

大型スーパーやレストラン向けの商品を中心に、売上が順調に伸びると推測。
アジア開拓に活路を見出す。



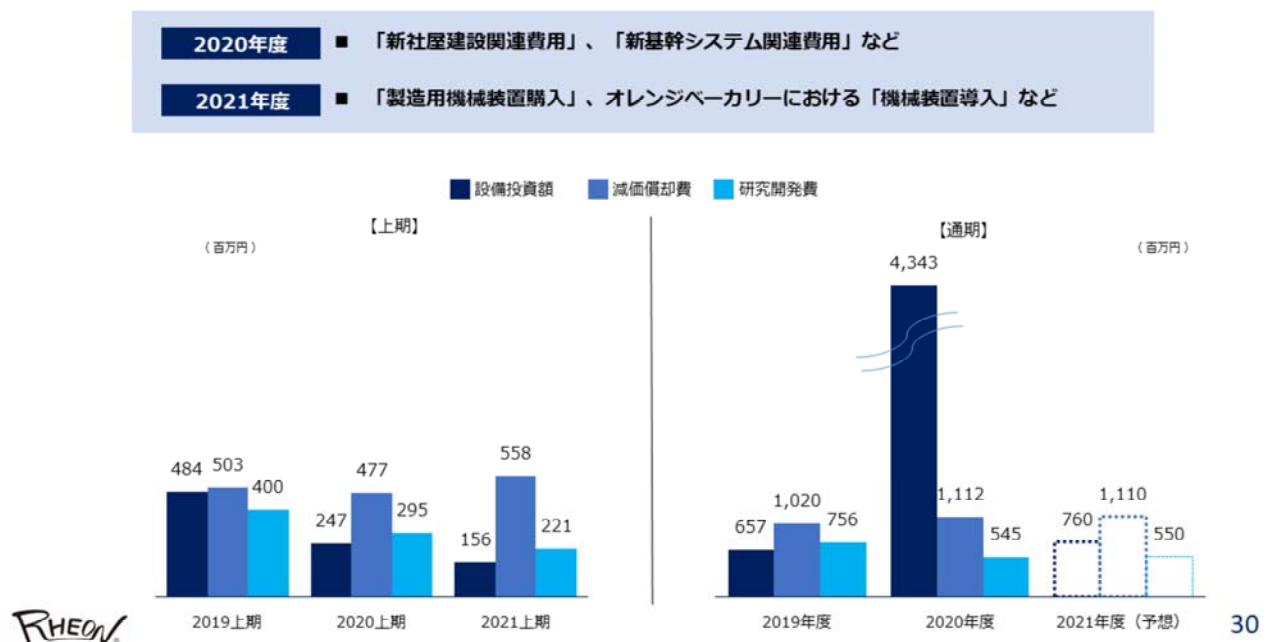
29

次に、「食品事業」の見通しです。

米国のオレンジベーカーリーは、下期も大型スーパーやレストラン向けの商品を中心に、売上が順調に伸びていくと推測しています。

一方で、下期も労働者の不足による人件費のアップ、原材料及び包装資材の不足による価格上昇、運送費の高騰により、営業利益は大きく下押しすると推測しています。

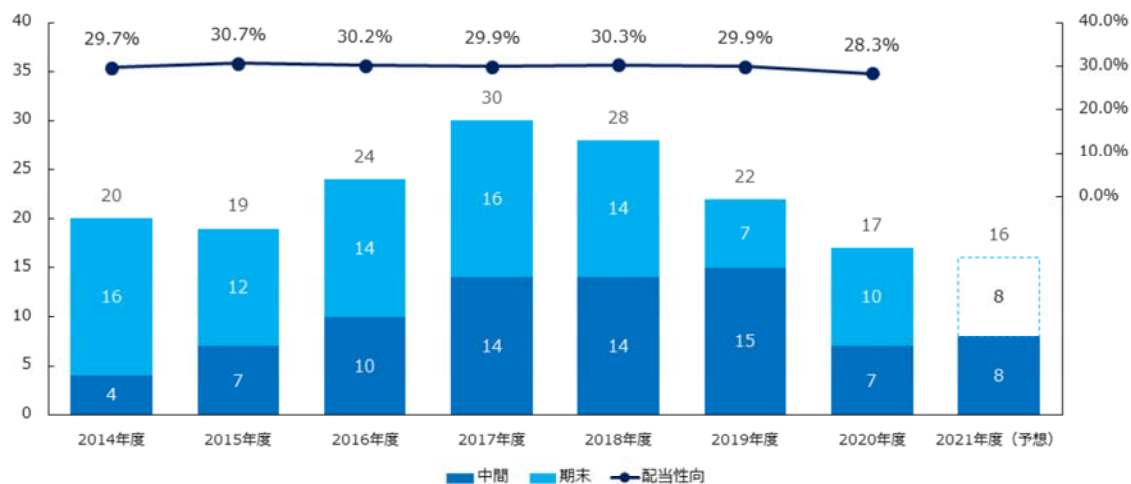
◆ ご参考 設備投資額・減価償却費・研究開発費



参考までに、今期の「設備投資」「減価償却費」「研究開発費」は、当初予想と変わりなく進んでおります。

◆ 配当方針

2014年度に連結配当性向の目標を30%とし、業績等を総合的に勘案し継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。



RHEON

31

次に、配当方針ですが、
 連結配当性向の目標を 30 %としており、
 2021 年度上期は、8 円 となりました。
 今後の利益の状況で変わりますが、
 2021 年度通期としては、現時点で 16 円 の配当を予定
 しています。

社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオングループが創業以来持ち続けている社是です。
これまでも、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオングループの大切にしていることです。



最後になりますが、当社の理念は、
独自技術に基づく自社製品を通じて、食品業界のお役に立ち、
また世界の食文化に貢献することであり、
これが、当社の存在理由でもあります。

近年、食を取り巻く環境は大きく変化し、
食品業界では、食の安心・安全の確保をはじめ、
食品ロスなど多様化する課題に直面しております。
レオン自動機は、こうした お客様の課題解決に、
ともに取り組むパートナーとして、
永続的に「存在理由のある企業」であり続けるため、
社員一人ひとりが変革に挑戦してまいります。



《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を説明する科学であり、当社の創業者（現 名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

引き続き、皆様のご支援を賜りますよう、
今後とも、よろしく願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

添付資料

◆ SDGsへの取り組みについて

創業の精神で培ったテクノロジーと実績



ビジョナリーカンパニーへの変革

- ◆多様なアイデアとレオロジーの応用による食品機械の開発・販売
- ◆多様な人材の活用
- ◆多様な食文化への対応と技術の展開
- ◆安定した経営基盤の維持
- ◆『存在理由のある企業たらん』を軸に食文化を支えるビジョナリーカンパニーへ
- ◆未来型食品工場へのチャレンジ（オレンジペーカー工場【米国子会社・製パン工場】完全自動化）
- ◆気候変動に強い完全自動化食品工場へ
- ◆強靱で持続可能なバリューチェーン

事業を通じて



- ◆食の安心・安全・安定供給
- ◆食品ロスの削減 ◆食品製造業の安定産業化
- ◆イノベーションによる美味しさと食文化の伝承

ビジョナリーカンパニーを目指して



- ◆“美味しさは世界を一つにする”の実現
- ◆食品工場の完全自動化 ◆業種を超えた連携
- ◆省エネルギーと生産効率向上による安定した食と職の提供

社員教育&ESGを強化して



- ◆社員一人一人がSDGsの精神を理解し行動する環境整備
- ◆省エネや温暖化防止設備への切替 ◆Society5.0の実現

<SDGs達成に向けた重点的な取り組み>「とちぎSDGs推進企業登録制度」

販売機種への高効率
モーター搭載
100%

販売機種のIoT化
目標 50%

女性管理職の登用
+20%

全社での
CO2排出量削減
-10%

RHEON

※ 詳細は当社ホームページ「SDGsへの取り組みに向けて」をご覧ください。